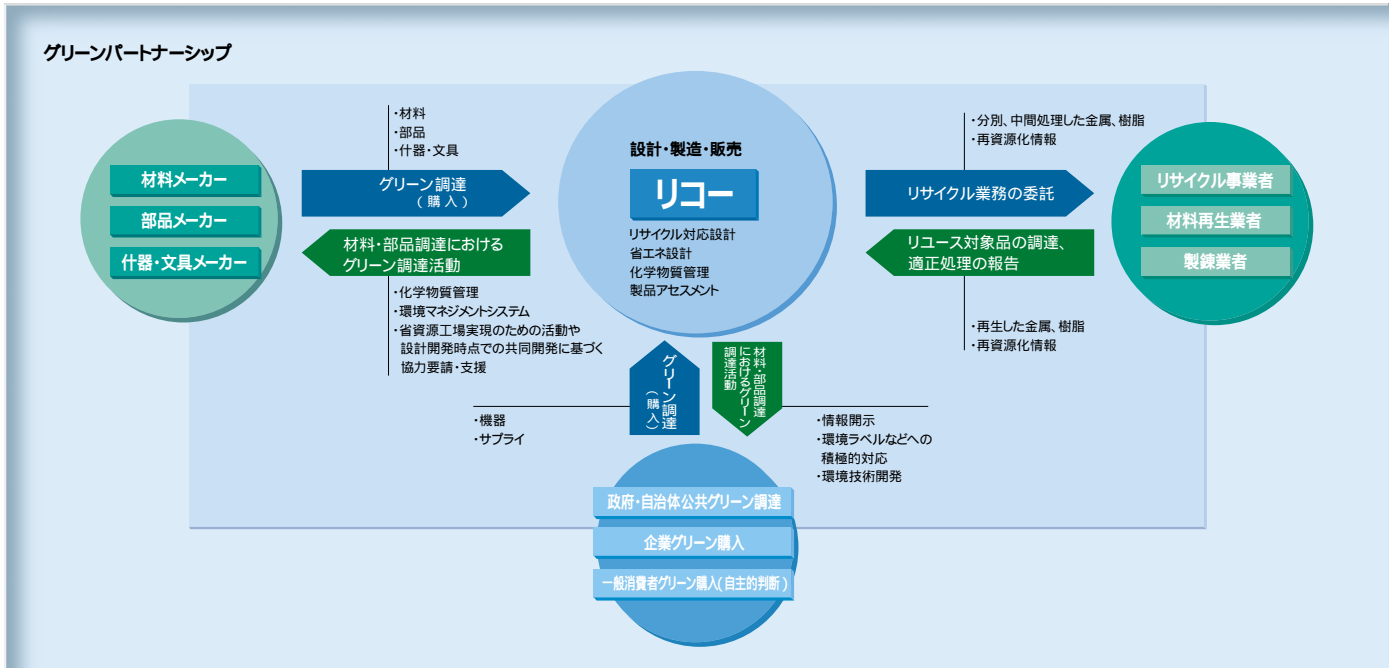


グリーンパートナーシップ

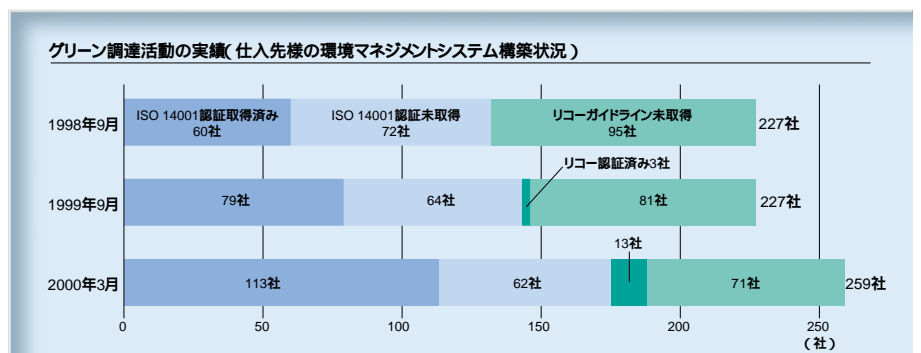


グリーンパートナーシップの考え方

企業活動全体の環境負荷を削減するには、環境負荷の少ない資材などを調達し、環境負荷が少ないように製造し、環境負荷の少ない製品を販売することが重要です。リコーグループは、資材調達先である仕入先様、リコー製品をご利用いただくお客様、提携リサイクル事業者すべてをグリーンパートナーと考え、パートナーと共に環境負荷を削減するという考えのもと、調達資材の選択や、環境負荷の少ない製品の開発や提案、事業所の環境負荷削減を徹底して行っています。また、環境負荷の総量削減と同時にトータルコストの削減も図り、環境経営の実現を目指しています。



リコーグループグリーン調達ガイドライン



資材のグリーン調達

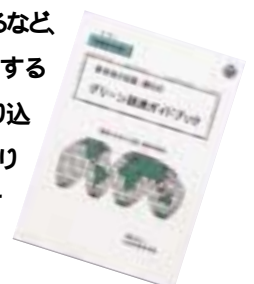
環境負荷の少ない工場で製造された、環境負荷の少ない資材を調達するために、リコーグループは1998年に「グリーン調達ガイドライン」を発行。ISO 14001の取得、またはリコーグループのガイドラインをクリアすることを取引の条件とし、仕入先様に協力を呼びかけました。ただし、一方的にガイドラインの遵守をお願いするのではなく、リコーの内部監査員が仕入先様を訪問し、アドバイスや無料審査などのサポートを行ってきました。また、多くのパートナー企業とともに、経済効果の高い環境活動を行っていただくためには、情報やノウハウの開示・共有化も重要です。リコーは、「グリーン調達

ニュース」の発行やリコーグループで成果をあげたごみゼロ工場*の事例などをもとに、仕入先様との技術交流会も行っています。

*44ページを参照。

包装材に関するガイドライン

リコー化成成品事業本部では、「グリーン調達ガイドブック」を発行。リサイクルが困難な18リットル缶からリサイクルできるドラム缶に納品形態を変更するなど、包装材の削減に関する数多くの事例を盛り込んだ、具体的でわかりやすい内容になっています。



パートナー企業への支援実績

事務用品や備品のグリーン購入

首都圏エリアにあるリコーの青山・大森・銀座事業所では、社内で使用するOA機器、備品、文具、販促品、贈答品などに関する「グリーン購入品リスト」を作成するとともに、自動発注システムを構築し、効率的なグリーン調達を推進。今後、このシステムを日本全国に展開していく予定です。また、リコーユニテクノでは、事務用品の「グリーン商品コーナー」を設置。このコーナーは仕入先様とオンラインで結ばれ、在庫が少なくなると自動的に事務用品が供給されるだけでなく、従来使用していた紙の発注伝票も不要になりました。



グリーン商品コーナー(リコーユニテクノ)

グリーン販売

リコーグループは、エコマークやブルーエンジェルマーク、ルディックスワンマークなどの、タイプI環境ラベル^{*}を取得した環境負荷の少ない製品をグローバルに販売しています。タイプI環境ラベルへの対応を日常的な設計活動に取り込むために、ラベルの基準を社内の設計基準として取り入れ、複写機全機種で取得することを原則に活動を進めています。

* 第三者が定める製品に対する環境保全基準。

製品の環境負荷情報の開示

お客様に環境負荷の少ない製品をお選びいただくためには、環境負荷情報の開示も重要です。リコーグループは「タイプIII環境宣言^{*}」で、製品のLCA情報をいち早く開示しました。また、政府の物品調達リスト、グリーン購入ネットワークなどに製品情報を開示し、それぞれに高いレベルで対応しています。 *35ページを参照。

リコーグループは、グリーン調達を実施するにあたって、条件を提示するだけでなく、パートナー企業の環境負荷削減をサポートすることも重要だと考えています。これらの活動を通じて、仕入先様でも「環境改善 = コスト削減」という意識が芽生え、経営体質の改善が進み、大幅なコストダウンや意識改革に成功しています。

残業も減り、1,500万円以上の
コストダウンを実現

——— 静宏産業(株)様

沼津市にある静宏産業(株)は、社員約70名、トナーボトルなどのプラスチック部品を製造しているメーカーです。ガイドラインへの対応だけでなく、1999年6月には、ごみゼロも達成しました。「リコーが環境保全に積極的なことは知っていましたし、うちの製品もリコーと同じレベルでないといけない。全員参加でアイデアを出し、品質改善と環境保全を進めていきました。リコー



沼津事業所が近いため、疑問があるとすぐ見に行けましたし、法律関係のアドバイスや、プラスチックのリサイクル事業者も紹介してもらい、1年ほどで体制ができました。ごみを工場の外に出さないなど、環境保全活動を通して、工場の社会的責任や、工場のありべき姿を追求できました」と語るのは社長の相吉三宏さん。従来は見込み生産のため、ラインを止めることなく製品を造り貯めしてきましたが、現在は計画生産・適正在庫体制に移行し、前年比1,500万円以上のコストダウンを実現。残業もほとんどなく、ゆとりがゆとりを生み、体質改善のための発想も出やすい環境になりました。

全員参加の手作り感覚で、
ISO 14001を取得

——— (株)鈴幸製作所様

川崎市にある(株)鈴幸製作所は、社員約80名のプレス部品の加工メーカー。リコーのグリーン調達への呼びかけがきっかけになって、ISO 14001を取得しました。社長の渡部文一さんはこう振り返ります。「うちは年齢層の高い職人が多く、ISO 14001のような環境マネジメントシステムの構築には馴染みにくい体質でしたが、逆に、それが社員の意識をひとつにするチャンスだと考えました。最初は、私自身、環境とコストとは結びついていませんでしたが、省エネ効果をお金で見えるかたちにしたのが効果的でした。『今月はいくら節約できた』と社内に貼り出すことで、社員全員に、環境改善 = コスト削減という意識が芽ばえ始めたのです」。プレス部品メーカーですから、油漏れ防止の油受けをはじめ、汚染予防や振動対策のための設備を造ることはお手のもの。1999年8月にISO 14001を取得し、現在では、部課長全員がISO更新のための環境影響評価の見直しを行えるまでになっています。

